

令和5年度 学校総体兼高校総体埼玉県予選 大会総評

報告者:高体連技術部員 熊谷高校 田淵常夫

□大会概要

ノックアウト方式で、6月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、14日(水)、18日(日)の6日間にわたって開催された。全ての試合は人工芝または天然芝のピッチで行われた。特に、準決勝および決勝は良質の天然芝ピッチである NACK5 スタジアム大宮にて行われた。試合時間は80分で、暑熱対策のため前半と後半にそれぞれ飲水タイムが1度ずつ設けられた試合もあった。試合が決しない場合は、20分の延長戦、それでも決まらない場合はPK方式によって勝敗を決した。登録選手30名のうち、試合には22名をエントリーし、交代要員11名のうち5名まで交代が認められた。

プレミア東日本所属の昌平高校、プリンス関東2部所属の西武台高校、関東大会出場の武南高校、埼玉平成高校が3回戦からの出場、関東予選ベスト4の浦和東高校、成徳深谷高校、ベスト8の細田学園、花咲徳栄高校は2回戦からの出場となった。

応援席では、熱の入った応援で選手を勇気づけ、試合会場は活気のある雰囲気にも包まれた。

新人大会、関東予選、総体予選の3冠を達成した武南高校が9大会ぶり16度目の優勝で21回目の全国総体出場を決めた。

□大会傾向

シード校が早期に敗退したり、支部リーグ所属のチームが上位に進出したり、多くのチームの力が均衡している状況があると言える。それだけ、埼玉県には競技レベルの高い選手が多く、質と強度の高い日常(ゲーム環境とトレーニング環境)を作り出せているのではないだろうか。

コンパクトなポジショニングからコレクティブかつアグレッシブにプレッシングを行うチームが増えた。DFラインをミドルエリアにポジショニングし、プレッシングをかける場面が多かった。自陣ゴールより離れた位置でプレッシングポイントを設定しているようである。それに伴って、守備範囲の広いGKが増えている傾向がある。DFの背後をカバーしたり、ハイボールへのチャレンジが広範囲であったりした。11人のプレーヤーの1人として、off the ballでのプレー予測やポジションの調整を行うことを意識しているGKが多くなっているのは好ましい状況である。

勝ち上がったチームは、強固な守備だけでなく、攻撃の質が高かった。違いがみえるのはアタッキングサード、特にペナルティエリア内のプレーの質(パス、ドリブル、コンビネーション)であった。時間とスペースがわずかな場所で状況を把握し、相手と味方の意図を読み取り、正確な技術を発揮できなければ、上位の試合では得点できない。また、セットプレーも強みの一つであった。デザインされたプレーだけでなく、実行できる高い技術力(キック、コントロール、駆け引き)を持っていた。

□今大会のベスト4

ベスト4: 昌平

テクニク、フィットネスが非常に高いチームである。攻撃では、ボールコントロール、ドリブル、パスなど個人技術が極めて高い。個でのボール保持が安定しているため、ボールから目を離し、相手、味方、スペース、ゴールを観る機会と時間が長いため、相手の逆をとるプレーが多い。MF⑦土谷は昌平の中盤の要である。ゲームメイクのセンスが高く、相手の守備バランスを崩すことが得意である。また、キックの種類が多く、正確なため、セットプレーでも得点を演出することができる。MF⑧大谷、MF⑩長準は時間とスペースが少ない中でもチャンスが作れる技巧派アタッカーである。即興性にも優れてお

り、見ている人を驚かせる選手である。また、今大会はプレーする時間が短かったが、MF⑪長璃はペナルティエリアに進入する能力に長けている。1年生ということもあり、今後楽しみな選手である。さらに、今大会は1年生の山口選手が、U17 アジアカップに日本代表として参加したため出場することができなかった。選手権での昌平高校は、本当に楽しみなチームである。

ベスト4：正智深谷高校

個人能力が高く、中盤での構成力や個で打開するアタッカーがいるチームである。DF⑳平塚は縦パスの質が高く、攻撃の糸口を作っていた。MF⑦大石は守備のセンスが高く、相手の中盤の攻撃を規制していた。MF⑧大島とFW⑩服部は中央からチャンスを作り出せる技術の高い選手である。今後、アタッキングサードでの攻撃の質とGKと協調した守備の質が向上すれば、選手権での躍動が期待できる。

準優勝：浦和南高校

豊富な運動量とタイトな守備、鋭いカウンターアタックとセットプレーが秀逸のチームである。相手陣ではコンパクトでアグレッシブなプレスで相手を苦しめ、自陣ゴール前ではセットプレーも含め、強靱で粘り強い守備で相手の攻撃を跳ね返した。GK①金はシュートストップ、ハイボールの処理、DFの背後のスペースのカバーと現代のGKとして理想的な仕事をこなした素晴らしい選手である。MF⑦濱口は献身的であり、豊富な運動量でチームの中盤を支えた。MF⑩伊田はチャンスメイクのできるサイドアタッカーであり、キックの質も高いためセットプレーキッカーとしても攻撃を牽引した。FW⑬志田は独特な攻撃のリズムを持ち、途中出場場で攻撃にアクセントをつけてチームに勢いをもたらせる選手である。

優勝：武南高校

攻守にわたり、原理原則をしっかりと意識し、プレーしていた。切り替えも早く、フィットネスも高いと感じた。特に、アタッキングサードでの攻撃の質は高かった。ペナルティエリアへの進入も多く、個人技だけでなく、コンビネーションプレーも冴えていた。縦パスの出し方が豊富で、それを攻撃のスイッチにして、連動して相手の守備を崩していた。また、中盤のエリアでの幅を使った攻撃が見られた。このボールの循環により、相手のコンパクトなポジションを破壊し、優位な状況を保ちながら、ボールを前進させていた。

MF⑩松原は得点、チャンスの演出、ゲームメイクと攻撃面で多岐にわたるプレーで優勝に貢献した。左サイドでのプレーが多いが、ピッチを自由に動き回り、攻撃を牽引した。攻撃のセンスとテクニックを持ち合わせた選手である。キャプテンGK①前島は安定したプレーで、武南の守備を支えた。DF④岸は高さ対人に強いセンターバックで、相手の攻撃の芽を何度も摘んだ。MF⑧高橋は左利きのゲームメーカーで、ゲームの流れを読むことに長けている。キックの質も高く、セットプレーのキッカーとして相手の脅威となっていたFW⑨戸上は力強いストライカーである。松原とともに得点を量産した。

□おわりに

攻守にわたり組織的なチームが増えてきたことは素晴らしいことである。さらに、良いゲームを行うために、個のプレーの質と強度について向上できるよう取り組んで欲しい。特に、GKとCBについては、攻撃と守備の要となる選手を育成していきたい。

埼玉県代表の武南高校は、本大会で持てる力を十分に発揮し実りある大会となることを期待する。